

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	江東区こども発達センター		
○保護者評価実施期間	2025年3月13日		～ 2025年3月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	84	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	2025年3月18日		～ 2025年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○訪問先施設評価実施期間	2025年3月10日		～ 2025年3月19日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	78	(回答者数) 52
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先施設で実行しやすい具体的な支援方法や環境づくりをともに検討できるようにしている。	訪問時に訪問先施設職員の方々と丁寧なカンファレンスを実施し、実情に合わせた実践可能な支援方法を考える。こどもの行動観察に基づく具体的に実用的な支援を考える。声かけや関わり方など、すぐに取り入れられる具体的な支援内容を提案する。	支援方法の実践後フォローアップの強化(電話・メール等での確認など)を検討していきます。
2	訪問先施設との連携、訪問先施設の職員の方々へのフィードバック、カンファレンスの実施を行い、情報共有や支援について話し合いを行っている。	訪問時に必ず訪問先職員の方々との振り返りの時間を確保し、その場で気づきを共有する。具体的な支援記録の作成と共有による実践可能な方法の提案。施設の実情や体制を考慮した実行可能な支援方法の検討。	フィードバック内容の構造化(成功している点、今後の課題、次回までの提案等)を検討していきます。定期的なフォローアップの仕組み(訪問間の電話相談日の設定等)を考えていきます。必要に応じて、オンラインツールを活用した訪問間のミニカンファレンス機会を検討します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問実施の頻度が少ない。利用希望者数が多く、希望日時や時期にに沿えないことがある。	利用希望者数が増えており、マンパワーの制約がある。訪問支援員と訪問先施設の行事予定や授業スケジュールとの調整に制約がある。発達支援ニーズの増加。	訪問支援の回数増加の可能性を検討します。常勤・非常勤職員の業務効率化による対応を検討します。複数の訪問日時候補の提示による調整の円滑化をはかります。
2	報告・記録のタイミングがお待たせしてしまう状況になることがある。	訪問支援後、職員は記録作成に加え、他の訪問や直接支援業務も並行して行う必要があり、記録完成までに時間がかかる。	訪問後の速やかな報告体制の改めて検討します(電話・すぐるの活用など)。「すぐる」などのデジタルツールを活用した情報共有の効率化を検討します。記録様式の見直しなど、記録業務の効率化を検討します。
3	PDCAサイクルへの参画について、職員の参画度に差がある。定期的な会議や確認の機会、ケース会議の設定がもう少しあるとよい。	日々の訪問支援や直接支援業務を並行して行っている。常勤・非常勤職員の勤務時間の違いにより全員が参加できる会議設定が難しく、情報共有に偏りが生じやすい。	職員間のコミュニケーション強化をはかります。定期的なケース検討会の実施を調整します。児童発達支援・相談事業の担当職員と訪問支援員の情報共有の強化を行います。